

施策番号 5-1-3	施策名 国際・地域間交流の推進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり			
		政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり			
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	231
	施策関係課	農林課・生涯学習課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
友好都市との交流による人材育成と交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。		町民・交流都市の住民	・友好都市との交流に参加し、異なる文化に触れ、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる					交流を通じたさまざまな視点と情報の連携によるまちづくりをすすめる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度(予想)	2022年度目標	
①	他都市(トレーシー市・広尾町・揖斐川町)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	%	71.5% 48.2% 50.7%	75.5% 48.0% 60.7%	68.8% 44.9% 58.1%	75.0% 50.0% 50.0%	75.0% 50.0% 50.0%	
②								
③								
④								
成果指標設定の考え方	①トレーシーについては町民の3/4、広尾・揖斐川については町民の1/2に知ってもらうことを目指す。							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算
施策事業費(千円)	9,990	13,358	9,318
人工数(業務量)	0.4363	0.5577	0.1920

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	コロナ禍において交流事業全般が停滞していることから、住民にお伝えする機会が減り目立った向上はないものの、広報誌を通じての定期的広報が大きな変化を生まなかったと想定する。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	コロナ禍において、交流事業全般の先が見えないことから、このまま停滞することも考えられる。今年度は国内の友好都市に関して成果を高める新たな方策を想定していることから目標を達成できると考える。
(2) 施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	揖斐川町交流推進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内地域間交流(揖斐川町・広尾町)については、広報誌において以前から定期的記事を掲載するとともに、揖斐川町に関しては2019年度から職員の相互派遣を開始し、広報誌面において職員の定期的報告を記事にしてお知らせすることができた。 ・国際交流については、コロナ禍で一切の交流事業ができなかったが、両町の姉妹都市協会(民間組織)が主体となった、新たな交流事業(動画のやり取り)などを実施し、広報誌、協会SNSなどにおいてもその活動を広くお知らせした。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 人口対策を進めるためには、住民による郷土愛の醸成が効果的であり、そのためには、外からの視点で芽室町を見ることも重要である。また、今後は双方の自治体のファンづくりとして関係人口・交流人口の創出という観点から推進していく必要がある。</p> <p>《今後の予測》 地域間交流は認知度の向上のみならず、双方の人的交流から、双方の経済交流につなげるなど、新たな成果も意識していく必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	特になし

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・国際交流・地域間交流ともに、人材交流・物産交流・経済交流などに結び付けていくことが大きな目標であるが、各交流とも事業が定例化している。広尾町との交流の35周年の節目であること、また揖斐川町は同町からの派遣職員が本事業担当職員であることから、コロナ禍でリアルな交流事業ができない中、移動しない中でもできる新たな交流事業を模索、実施を進める。

・地域間交流のコネクションを活用した、関係人口・交流人口づくりの創出から、双方にとっての経済効果として、アンテナショップ、ふるさと納税事業につなげる取り組みを進める。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	実際の往来が制限される等、コロナの影響を大きく受けているが、デジタルコンテンツやSNSの活用など工夫した取組を続けており、変わらないと評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果						○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	「D変わらない・維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果						○	
今後の取組に対する意見	・友好都市提携のきっかけや交流内容など歴史を知る機会があるといいのではないかと。 ・コロナ禍だからこそ、多くの子どもが揖斐川を体験できるような企画があるといいのではないかと。 ・広尾町との交流も置き去りにされないようにしてほしい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					